

長野ブロック協議会 会長公式訪問

夢企画委員会 吉川 昌宏



長野ブロック協議会
会長公式訪問（南信圏）が行われました。今年度は、南信圏から駒ヶ根青年会



長野ブロック協議会会長塩沢和彦君

議所の塩沢和彦君が会長として活躍されていること、そして我が飯田青年会議所から熊谷弘君がローカルマネージャースト推進委員会の委員長として出向していること、また熊谷委員長を含めて8名ものメンバーが出向していることが特筆すべき事なのですが、その日々の活動の詳細は、各出向者の負担の中で行われており、敬服すべきものがあります。日常のLOM活動に加えて、広大な長野県内を移動しながらの活動は、それだけでも時間的な負担が多い

ことと思いますが、各LOMを代表しているという気概の下で今年の活動が開始されていることがよくわかりました。特にブロックアワーにおいては、各LOMのおかれていた問題点の発表や討論がなされ、JC活動自体が、JCだからとか、JCしかできないものではなくなっている状況の中で、どのようにしてJCカラーを醸し出していくか各LOMが日々苦勞されている様子がわかりました。今回の会議の中で、発言の機会があった皆さんお疲れさまでしたが、特に新入会員ながらに指名された「堀本君」お疲れさまでした。最後に「信濃びとの歌」を3フレーズまで歌ったわけですが、これについては制定された経緯と、LOMで数回は練習をした方がベストと思うわけです。



長野ブロック協議会理事の皆様

断によってJC参加率が急速に低下しているのは事実でありまして、まず持つ皆様にお詫び申し上げます。人生や会社経営において、大きな決断に迫られるときは多々あると思えます。自分自身を振り返ってみますと、親父が亡くなって、社長として会社の大きな舵取りの仕事をしようになり早三年が過ぎようとしています。その間、自分自身が常に安定（リスク回避）を基準にすべての事柄を決断してきたような気がします。会社の経営が順調なときには社長なんてする仕事は現場においてあまりなく、私自身もそれに満足しておりました。

特集

あのときの決断：そして今

特集第二弾は、飯田青年会議所現役メンバーの山下大輔君です。もちろんメンバーは全員、仕事をしながらのJC活動です。その中で、会社のこと、JCのこと、家庭のこと、様々な決断を迫られることがあると思います。今月は、会社経営の中で、決断をしなればならなかったときの様子、気持ちを山下大輔君に執筆頂きました。



渉外委員会 山下 大輔

今年度、経済交流分野室・渉外委員会の山下です。今回「決断の時」というテーマを戴きました。この決断

しかし、油断しているときこそ大きな事件が起こるもので、当社とビジネスパートナーとして長年お付き合いをしていたらいた会社で「自己破産・社長の自殺」と言ったまさに想定範囲外の事件が勃発しました。普段は社長がいると煙たがっている社員が、会社が異常事態に陥ったときにはそのトップの行動や発言・考え方をつぶさに観察しています。そこで自分自身が社内外に動揺や不安を見せればトップの能力不適合となり、旗を振れども社員はついてきません。ピンチの時の決断こそ「自分らしく」「明るく」「前向きに」「わかりやすく」判断を実行しなければ大成しないことを今回の件で学びました。おかげさまをもちまして茨城県にあるその会社をM&Aに成功し、支店として再生していく基盤を作ることができました。トリノオリンピックで金メダルを獲得した荒川静香は得点にならないイナヴァウアーを演じましたが、その決断はまさに自分らしさを「明るく」「前向きに」「わかりやすく」表現したのだろうと思います。

